

# あゆみ

## 『優しい水』

理事長 森 公夫

中国の古いことわざに「水は方円の器に随う」というものがあります。方は四角、円は文字通り丸を表します。出典は孔子とか老子と諸説あるのですが、たぶん似たような喩えがどちらにもある



からなのでしよう。「人は環境や付き合う人によって良くも悪くもなる」という意味に使われているようですが、もともとは器を君主、水を民衆にたとえ、為政者次第で民衆は良くも悪くもなるという意味だったそうです。この数年、世界各国に大きな変化が起こっているのも、それに似た情況なのでしょつか。

水には「水の流れも止まれば腐る」という言葉もあります。停滞感や閉塞感、池の底に溜まったガスのように人の心に鬱積します。なにかをきっかけに火がつけば大惨事です。過去の大きな戦争が、やはり人心に閉塞感が蔓延した時代に起こった歴史を見ると怖さもありません。今こそリーダーの資質が問われる時代なのだと思います。

「水は方円の器に随う」にはもうひとつの捉え方もあります。どんな器にも順応しながら、それでいてその特性を変えないということころです。

相手の情況や気持ちに合せ、形を変えながら人に寄り添うと考えれば、私たち福祉の仕事に携わるものすべてが常に心しなければならぬことに通じます。

ただ忘れてならないのは、時に水は「氷」という、全く性質の違うものに姿を変えることがあるということころです。なにかのサスペンスドラマで、犯

人が氷を凶器にすることで証拠隠滅を図るといふ筋書きがありました。水は氷になることで人を傷つけたり自分を傷つけたりします。これもまた、人の心に通じるもののように思います。

細かすぎるほど、いろいろな取り決めや手順が明文化され、一見すると整備されてきたように見えるこの世の中が、なぜかますます生きにくくなつたと感じるのは、私たちの心が少しづつ滞り、凍りはじめているからかも知れません。

国際社会で生きていくためということで、学校教育の中にもディベートという言葉が使われるようになりましたが、時としてそれは議論ではなく容赦ない攻撃に見えることもあります。先に行われたアメリカの大統領選挙のような誹謗中傷合戦を、多くの日本人は「素晴らしい」とは感じないのではないのでしょうか。私は、攻撃しあう中の妥協よりも、お互いが認め合う中で生まれる合意のほうに価値を感じます。

「寝めたたえる」の反語は「罵」のののしり倒す」とありました。そうして手にしたものが本物なのかどうか、感じ方はいろいろだと思いますが、できるならば、優しい水のような心で生きていける世の中であって欲しいと願います。

## 社会福祉法人あゆみ学園

### 理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督教（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

## 『「あゆみ」じたいのしくみ』

松山教会

牧師

上島 一高

ささやかな一般寄付者として、妻と共に、長年あゆみ学園を応援して来た者でしたが、この度、学園の母体である松山教会牧師となり、同時に、学園の理事にも加わらせていただきました。

教会には、多機能型事業所あゆみに通う方々から、折々、教会の庭整備に来ていただき、感謝です。十一月の教会バザーでは、玄関のところで、ジャムや野菜・果物を販売してくださいました。牧師としての歩みを振り返ると、振出しの今治

教会では、視覚しよוגいのある友の真摯さ・たくましさ・ユーモアに励まされ、車椅子を使う友の優しさと粘り強さに支えられました。

北海道では、小児麻痺・難病を持つ友の勇氣と社会を変えるチャレンジに、また、精神しよוגいを持つ友と一緒に教会と社会を変える（島松伝道所・浦河へてるの家）動きに目を開かれました。

新潟教会では、手話でコミュニケーションを取る家族によって、礼拝が何倍も生き生きとし、あゆみのような作業所に通う友の醸し出すポジティブ・オーラが教会を真の教会にしていきました。

再び戻った今治では、めぐみ幼稚園の園長を担う中で、子どもたちの発達支援のために、六年間手探りを続けました。関係機関・専門家・保護者と連携しながら、多くのことに気付かされました。

松山に来て、改めて、支援して来たあゆみ学園に、児童発達支援事業どんぐりがあって、通園により発達支援が受けられるようになったことを意識しました。

また、対外的にも、児童発達支援センターを通して、近隣の幼児教育施設への支援や、同連携を担っていることを知りました。今治めぐみ幼稚園時代は、このような支援を受ける立場でした。

想い起せば、発達支援は、子どもたちを観察し

続けることが原点です。その中で、寄り添う者の目が開かれ、分かち合われます。すると、子どもたちとの心の通路が開けるのです。

また、保護者が、子どもたちの「あるがまま」を観始めると、子どもたちが、劇的に変化していくのに出くわしました。世界が子どもたちの居場所になったからです。

まだ、あゆみ学園自体の様々な取り組みを十分には知らない者ですが、共に応援し、共に働ながら、わたしたちも、世界が本当に自分の居場所となるようにして参りましょう。



『今年もまた子どもたち』

あゆみ学園

管理者 武智 一郎

今年も子どもたちに脱帽です。

それは運動会での出来事でした。今年の秋は天候不順で、天気予報もころころ変わり、心配の種だったのですが、運動会当日も、いつ降ってもおかしくなさそうな実に微妙な天気でした。

案の定意地悪なお天道様は、開始を待っていたかのように時折雨を降らせます。首をすくめながら続けていましたが、とうとううさぎ組の演技の最中にザーッと降ってきました。保護者の方はご存じのとおり、子どもは途中でテントに避難。観客の皆さんも建物の中へ疎開です。幸いしばらくして雨も上がり、さあ、再開です。

演技を中断させられ、じっと待たされていたうさぎ組の子どもらは、驚くべきことに、何事もなかったかのように演技の続きをやっていたのです。児童用テントにいる他の子どもたちも、この中断など関係なく応援しています。この子らを知らない人は、『当たり前だろ』『と思いついてしまう。しかし、私にとってはそれこそ驚きなのです。

センターやごまぐらに来ている子どもたちは



突発的な変化が苦手で、見通しの立たない中でじっと待つのは、大変苦手だと言われています。でも、この日、彼らは『それ、誰のこと？』と言わんばかりに運動会に集中していました。これは、日々の療育や運動会練習を通して、先生たちと子どもの波長がうまく合っていたためかもしれません。

とにかく、今年もまたこの無邪気な、すい子どもたちに脱帽です。

『意思決定の支援に向けて』

多機能型事業所あゆみ

管理者 真鍋 孝夫

先日、日本が締結した「障害者権利条約」は、法の前の平等を定め、他者が障害者である本人に代わって物事を決めるのではなく、本人の意思決定を尊重すべきとしています。

これまでの成年後見制度を見ても、本人に代わって物事を決める代理・代行の仕組みが優先されてきました。

今回の動きは、障害者自身の意思決定が最大限に反映される支援により、障害者を保護する考えから、障害者を権利の主体へと生き方の方向転換を図る絶好の機会でもあります。

人間として、自分の考えが尊重され、自分の意思で決めて精一杯に生きる事は、とても素晴らしいことです。これまで、障害者の意思表出である行動が否定されたり、情報の受容や体験の機会が少ないなど、障害者自身が不利益な環境にあったように思います。これからの障害者福祉は、障害者自身が何を望み、どの様に生きて行きたいのか、意思決定の支援に向けて、意思の形成や表出段階での支援など、障害者一人ひとりに応じた支援の在り方が問われてくるものと思います。



「障害者権利条約」に基づく人間としての生き方に少しでも近づき、共生できる社会の実現につながればと願っております。

『開設十周年、次の十年は』  
多機能型事業所あゆみ

管理者補佐 渡部 剛

平成十八年に、あゆみ作業所として開設して、在宅の子や学校出た子の日中活動を支えて早十年が経ちました。

この間、地域の方々や、学校・行政関係者、先輩施設などに陰に陽に助けられて支援サービスの充実に努めてきました。

お陰様で、今は四十人余りの子供達（大人ですけど）が毎日元気な姿を見せています。特に、平成二十四年に事業を多機能型に再編して、施設も拡充してからは、職員の地道な頑張りで提供できるサービスメニューも増え、日々の利用者の活動もバラエティーに富んできました。園外へのお出かけの機会も多くなり、利用者も楽しみにしています。

また、作業の面でも、農作業などは地元的地権者のご厚意で耕作面積が増え、年賀寄附金による助成で念願のトラクターも買えましたので、無花果、苺、トマトに加え、旬の野菜を年中栽培して販売する色々な作業に、利用者が従事できるようになりました。

さて、こうして日中の支援体制は整ってききましたが、利用者或いは家族の立場に立てば支援のニーズは幅広く、奥深いものがあります。現に、開所日以外の土日曜日に他の施設を利用したり、中には平日にも他施設のサービスを選択される利用者もいますし、また、家庭生活を続ける中で、ショートステイのように夜間のサービスを必要とされる場合も多々出てきます。

次の十年間は、このような多方面のニーズにどう応えていくか、事業者としてどんな知恵を出していくか新たな挑戦の日々が続くのでしよう。



『 etsyあたちい過じお毎口の中び… 』  
児童発達支援センターあゆみ学園

児童指導員 能口 愛香

三年ぶりにあゆみ学園に戻ってきました。

今年度は年中、年長児クラスの担任となり園生活は子どもたちが先輩！「お部屋入るよ」と呼びかけてくれたりイスを並べてくれたり…と小さな先生たちにお手伝いしてもらっています。また運動会では突然の大雨にも負けず見事最後までやりきってくれました。練習を重ねていく中で「一人でできた」「負けまいとがんばった」「子どもたちの姿に応援にも熱が入りました。これから子どもたちの成長を間近で感じ、応援団となるよう努めていきたいと思っています。

『 出会い 』

児童発達支援センターあゆみ学園

児童指導員 武内 康明

転職して早一年が過ぎようとしています。療育に関わる仕事はじめてですが、先生方のご指導もあり頑張っています。この一年子どもたちや保護者の方々とたくさんのお会いがありました。出会いというのは本当に素敵なことだと思います。毎日子どもたちと一緒に遊び関わっていくことでお互いを知り、子どもたちの成長を支えていけるお手伝いをしていきたいと思っています。

『 あっという間 』  
児童発達支援事業どんぐり

児童指導員 矢野 志穂

今年も元気いっぱいな二歳から六歳までのお子さんが約五十名、どんぐりを利用して下さっています。年齢の異なるたくさんのお子さんと関わることができるのは、どんぐりの職員ならではと感じています。

小さいお子さんは四月当初、お母さんと離れると泣いていたのですが、今では、テキパキと荷物の片づけを済ませてから笑顔でバイバイをするようになっていきます。幼稚園組のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちはみんなの前で大きな声であいさつやしたことを伝えてくれるようになりました。ここでは書ききれない位、それぞれのお子さんの逞しくなっていく姿



を見ると、子どもの成長は本当にあっという間であること、常に好奇心いっぱい色々なことを吸収しようとしていることを改めて実感します。



私自身は年齢を重ねるにつれ、一年があっという間に過ぎていきます。日々、充実しているといえは聞こえはよいかもしれませんが、めまぐるしく過ぎていく中で、子ども達の成長を見落としていないかと不安になります。大人にとっては日々の繰り返しでも、子どもにとってはきっと毎日が新しいことの連続、発見でしょう。子どもたちの期待を感じる表情を見たり、ユニークな発想を聞いたりするたびに、私自身も新しい発見ができるよう、違う角度や方向からも物事を見ていくべきだと感じました。あっという間だからこそ、着実に子ども達の“できた”達成感を増やしていきたいものです。

どんぐりが子どもたちにとって楽しい、安心して暮らせる場所になるようたくさんの方の遊びを提供しながら成長を見守ってまいります。

『ありがとう』

あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員 梶原 佳代

この四月に産休・育休等を経て、相談支援専門員として復帰しました。

相談支援専門員としては、八年目になるのですが、一年間お休みをいただいていた間に、様々なことが変わったり、新しくなっていたりと勉強の日々です。また、家に帰れば四歳と一歳の元気いっばい、わんぱく盛り男児二人の子育てに奮闘している日々です。

そんな毎日を送る中、業務としては主に、福祉サービスを利用する方の「サービス等利用計画」を作成させていただいています。この「サービス等利用計画」を作成するうえで、利用者さんや親御さん、利用者さんに関わる方々から話を聞かせてもらったりしています。単に紙面上の計画を作成するだけではなく、利用者さん親御さんの想いをちゃんと代弁できているだろうか、関わる支援員皆が



同じ方向を向いて支援できているだろうか・・・きちんと自分のしていることを振り返り、「つながる」「広げる」支援を心がけていきたいと思っています。

さて、先日、仕事を終えて、保育園に子どもを迎えにいった帰りの車内で「ママ、あながと（ありがとう）」と、一歳の次男の声が後ろから聞こえてきました。振り返ると笑顔で私を見ていました。一日の仕事を終え、子どもを迎え、さあこれから夕食作って・・・と、慌ただしく気持ちの余裕のなかった私にとって、とてもほっこりさせられることばでした。きっと次男は何かあって言ったのではなかったのでしょうか、私にとって、これ以上ない素敵な魔法のことばでした。思っているものなかなかことばにする機会のない「ありがとう」。短かった一言ですが、ことばにするこぼれ、こぼれに嬉しい気持ちになるんだな・・・と痛感しました。これからは私も、利用者さん・親御さんに関わる事業所さん等、常に感謝の気持ちを持ち、そしてそれをこぼれこぼれ、こぼれからの支援にさらに精進したいと思えます。

遊具をいただきました



この度、「松山西ライオンズクラブ」様より子ども達の遊具が寄贈されました。子ども達もさっそく楽しんで遊んでおり大変喜んでいました。頂いた遊具は大切に使用させていただきます。本当にありがとうございます。

『あゆみ生活支援員になるため』

多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

支援員 稲田 晶

多機能型事業所あゆみでの生活介護の職員となって一年が経ちました。大学で社会福祉を学び、そのことを生かせるような仕事がしたいと思い、生活支援員の仕事を選びました。

いざ現場に出てみると、授業で学んだことよりも大変なことが多く、このままやっていたらいけないのだろうかという気持ちでいっぱいになることもあり、不安に思ったことも度々でした。しかし、周りにはいろいろなことを丁寧に教えてくださる

先輩方がたくさんいて頑張ることができています。何よりも利用者さんがいつも笑顔で話しかけてくれ、元気を貰うことが何よりも頑張ることのできる理由になっていきます。

今は創作活



動や外出、運動、プール活動など余暇活動の業務に携わらせていただいています。どのような活動をしたら利用者さんは楽しめるかということ先輩方と話し合い、月に1回楽しい行事を考えています。私はその中で調理活動を主として行っています。季節にあったものを作って、出来上がったものを食べている利用者さんはとても笑顔になります。

そしてこのような笑顔をたくさん見たいと思います、余暇活動などを含め、生活支援員としてどんな支援ができるか毎日考えています。まだまだ自分なりの方法を模索している途中であり、利用者

さんにとっていい支援ができていると自信を持って言えません。先輩方の姿を見習い、いい支援とは何かを考えながら利用者さんへの毎日の支援に取り組んでいきたいと思っています。これからも関係者各位の皆様、よろしくお願いいたします。

『働くって素晴らしい』

多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

職業指導員 永井 壮

就労継続支援B型事業では、十二名の利用者と共にシヤムの製造や販売、農作物の栽培や販売、室内での軽作業、施設外作業（主に一般家庭の庭の清掃や簡単な樹木の剪定等）の四つの作業を行い、工賃向上を目標に、全員で一丸となり奮闘しています。

四つの作業の中で、最近仕事が増えてきたのは施設外作業です。松山教会様を中心に様々な方からご依頼を頂いています。いつも本当にありがとうございます。

施設外作業を行う中で、私が一番大事だと感じることは挨拶です。初めは恥ずかしくて下を向いたまま小さな声で挨拶をしていた利用者も、

「お客様に大きな声で挨拶すると、お互いが気持ち良いですよ、皆さんが買い物する際、店員さんに小さな声で挨拶されると良い気分はしませんよね?」と説明し、毎日挨拶の練習を繰り返すうちに、今では施設外作業の場だけではなく、日々の生活の中でも正面を向いて明るい声で挨拶ができるようになってきました。

これからも作業を通し様々なことを感じ、自立へと繋がっていきは幸いです。





## 父母の会 役員紹介

薦田 絢

今年度、会長をさせていただいています。子供達が笑顔で園生活を送るお手伝いが少しでも出来ればと思っています。今後とも宜しくお願い致します。

廣瀬 理奈

今年度、副会長を務めさせて頂いています。役員の任期も残りわずかとなりましたが最後まで楽しく頑張りたいと思います。

池田 愛里

皆様のご協力を頂きながら、役員メンバーとして楽しく精一杯にできたらと思います。よろしくお祈りします。

松田 礼子

今年度の会計を務めさせて頂いています。皆様のご理解とご協力への感謝を忘れず、より良い園生活を送るお手伝いができるように頑張ります。

渡邊 三希子

今年度、書記をさせて頂いております。初めての役員で不安もありますが、任期までお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしくお祈り致します。



## 家族会 役員紹介

谷本 加代

子供たちが充実した生活を送れるように、家族会の一員として協力できればと思います。御協力よろしくお願い致します。

久保 昌子

二度目の役員です。不安と期待でいっぱいですが、私なりに頑張ってみようと思います。宜しくお願いします。

相原 菊見

二度目の役員をさせていただきます。楽しく皆様と頑張っていきたいと思っています。

梅岡 典子

昨年に引き続き、役員をさせていただきます。皆様のご協力をいただきながら、務めたいと思っています。宜しくお願いします。

石野 ヒナ子

今年一年、子供達の為、家族会の為に少しでもお役にたてればと思っています。

加藤 真由美

家族会の活動の中で、皆様とお話する貴重な機会が増え、楽しく一緒にお手伝いができたらと思います。よろしくお祈り致します。

宮本 房美

今年一年、役員として少しでもお役に立てるよう、他の役員の方々と頑張っていきたいと思っております。よろしくお祈り致します。

## 訃報

今村歌子先生 御帰天

あゆみ学園の元理事長として長年にわたって学園のために多大な貢献をされました。今村歌子先生が十二月十六日、御帰天されました。

これまでの御功績に対して心から感謝し、平安をお祈りいたします。

## 新任職員

児童指導員 能口 愛香  
児童指導員 武内 康明

(平成二十八年四月現在)

## お知らせ

平成二十七年年度の苦情受付に関して  
受付件数0件。処理件数0件でした。

## 発行

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号

### 社会福祉法人あゆみ学園

ayumi-g@bz01.plala.or.jp  
Tel 089-972-0999 Fax 089-972-3511  
HP: http://business4.plala.or.jp/ayumi-ga/

児童発達支援センター あゆみ学園  
児童発達支援事業 どんぐり  
相談支援事業所くじら

Tel・Fax・mail とも法人に同じ

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号

多機能型事業所あゆみ  
生活介護事業所あゆみ  
就労継続支援B型事業所あゆみ  
あゆみ学園指定相談支援事業所

ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp  
Tel 089-974-5141 Fax 089-907-6100